

郷土研通信



ミズスギ

常緑性で硫黄山の一部に生える。硫黄山の地熱のためここに生育するとみられる。

細川音治著『阿寒・摩周の植物』から

発行：てしかが郷土研究会 (Teshikaga Regional Studies Association)

北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10 (松橋方)

文章責任：松橋 秀和

例会を兼ねて 忘年会が開かれる

一月一八日、「もつきり家」で例会を兼ねた忘年会を開催しました。会員九名とゲストとして前会長が参加されました。会長の乾杯のあいさつで盃をあげ、普段の例会では交わすことない話題をそれぞれ交わしました。

目的を持った仲間の雑談は、会話に刺激されて知識の深層にある記憶が呼び起されて、思わぬ話題やアイデアが出てくるので楽しい時間となりました。

近況報告

池の湯にある

松浦武四郎の碑の 整備について

池の湯にある松浦武四郎の碑は草むらの中でわかりづらいところにある。たどり着く道を整備しようとする志で考えていて、関係するところに当たっているが、土地や碑の所有者などの調



整に難儀をしてい
る。石碑
へたどり
着く道を
整備する
べく努力
している
ので、郷
土研究会
の協力を
願いたい
(斎藤)

旨の発言がありました。

*武四郎関係の石碑といえ
ば、摩周第一展望台の北西
側の藪の中に春木南華が武
四郎の『久摺日誌』を讀ん
で詠ったものが倒壊してそ
のままになってい
る。池の
湯の碑と
併せてこ
れも何と
かしたい
ものです。
(松橋)

川湯小学校と

小野江小学校の オンライン交流

一月六日に川湯小学校
と三重県松阪市立小野江小
学校の児童が松浦武四郎を
縁としてオンラインで交流
をしました。

川湯小学校からは「川湯
ばやし」が披露され、小野

江小学校からは街や学校の
特色などを紹介してくれま
した。最後に川湯小学校の
雪景色の校庭を映すと小野
江小学校の児童は歓声をあ
げていました。
この交流が長く続けられ
たらいいですね。



水越武氏の作品展 について

自然写真家・水越武氏は、
弟子屈に住まれて三六年
になります。弟子屈での
作品展は川湯ビジターセン
ターで催されている以外、
広く町民や地域の人たちが
接していませんでした。

郷土研究会では今秋に氏
の作品を預かることになっ
たことから、これらの作品
を公開したい、と氏にお話

したところ快諾をいただ
きました。
開催に向けては、場所や
方法、経費等のことがあり
ますので、理事会で概案を
考えて次回の例会に提案い
たします。

次回の例会

令和七年一月二日(水)

一九〇〇から

ふるさと歴史館

勉強会

オーラルヒストリー

てしかがの昔を語る

話者：高田 満 氏

お誘い

この機関紙をお読みに
なつて「てしかが」の文
化や歴史などに興味があ
り、仲間たちと和気あい
あいとフィールドワークや
語り合うのが好きな方、
いっしょに活動しません
か？

おかしおか史写真館

No.349

大正末から昭和の初めころに川湯地区周辺の道路が永山在兼によって計画され整備が進んだ。交通が便利になると川湯の特異な温泉の効能を求めて訪れる人も多くなってきて、やがて訪れる客へ対応する温泉旅館や商店が進出し、市街が形成されていく。

写真①には「湧出量豊富な川湯温泉」、②には「川湯温泉後方エゾ松試験林」のキャプションがある。押印されたスタンプには、「北海道釧網線」「川湯温泉」「(昭和)5.6.26」「遊覧記念」「温泉旅館対岳館」とある。鉄道の釧網線が全通する前であり、釧路あるいは弟子屈から乗り合いバスなどを利用して観光・湯治・慰安の目的で宿泊した客人へ、旅の思い出として記念に市販されている「絵はがき」を差上げたものではなからうか。カメラが高価で写真が貴重な時代であった。

写真③は、強酸性の温泉に耐えられる「オシロイ」の木を加工して樋にし、旅館の風呂へ引いていた。川湯温泉を象徴する風景だった。

対岳館はその後、国鉄保養所・KKR川湯と変遷していくが、人々が旅をする理由のひとつに、見慣れない風景とその土地に住む人との心の交流の非日常を楽しむためという目的は今も変わらない。

旅をする人々への「思いやり」と訪れて来てくれた「感謝」の気遣いはいつの時代になっても「観光産業」の基本ではなからうか。

(松橋筆)

温泉旅館対岳館

『弟子屈町商工の歩み』から
昭和7年 川湯市街地図に加筆

